

I. 医学および医療の水準の向上への貢献が日本医学会分科会にふさわしいと考えられる貴学会の独自の活動を以下に留意して記載をしてください。

a. 特に学術的に重要と考えられるもの

1. 学会誌 Journal of Epidemiology の毎月の発刊

人間の健康に関係する幅広い範囲の疫学に関するオリジナル研究を公表し、疫学研究の知見を利用する人や、疫学研究に携わる人々間のコミュニケーションを促進することを目的として、オープンアクセスの学術雑誌を発行している。海外、特にアジアからの投稿も多く、疫学系の雑誌として確固たる国際的な地位を築いている。 IF 3.7 (2023年) 投稿数 377 (2023年) 掲載数 83 (2023年)

2. 疫学専門家認定制度

会員の疫学に関わる知識および技量を、日本疫学会として評価し、認定することにより、会員の自己研鑽と質的向上を目指すとともに、疫学研究を遂行あるいは支援できる人材を養成し、社会に貢献することを目的として運用している。 上級疫学専門家：324名 疫学専門家：90名 (2024年4月1日時点)

3. サマーセミナーの企画・運営

疫学の初学者および疫学を専門としない臨床医等を対象としたセミナーを開催し、臨床・社会医学等の基本となる疫学研究の正しい知識と実践方法の周知に努めている。

- 2022年「医学論文の読み方 ～疫学的視点からの批判的吟味～」(ハイブリッド開催)
- 2023年「「チョコレートとノーベル賞の因果」から疫学的エビデンスの落とし穴まで～」(ハイブリッド開催)
- 2024年「疫学の面白さを体感！～リサーチクエスションの設定、研究デザインから DAG まで～」

4. 疫学に関する情報提供

- ホームページに一般向けコーナーを設置し、疫学用語の基礎知識等を掲載している。

https://jeaweb.jp/about_epi_research/index.html

- 日本疫学会監修の学術書を発刊し、疫学の正しい知識の情報提供と周知に努めている。

『疫学の事典』(2023年刊行) 『はじめて学ぶやさしい疫学』(改訂第4版)(2024年刊行)

5. 学術団体等からの要請による委員派遣

各種要請により、疫学会会員から適切な委員を推薦している。

福島県甲状腺検査評価部会 (1名)、福島県県民健康調査の調査情報提供に関する審査会 (2名)

禁煙推進学術ネットワーク理事 (1名)、日本多施設共同コホート研究 (J-MICC) モニタリング委員 (6名)、社会医学系専門医協会理事 (1名)、各委員会委員 (4名)、試験問題作成委員 (7名)。

全国公衆衛生関連学協会連絡協議会委員 (2名)

6. 社会実装推進ワーキンググループの設置

2024年度より、様々な領域の疫学研究の社会実装を実現するべく、学術委員会に「社会実装推進ワーキンググループ」を設置し、疫学研究の社会への実践的貢献を推進している。

b.当該領域における国際的な役割

1. 日韓台シンポジウムの開催（2023年2月3日 日韓台シンポジウム 於：浜松）
2. 国際疫学会西太平洋地域セミナーの開催（2022年5月26日 IEA-WP & JEA Joint Seminar）
3. 国際疫学会 IEA への委員派遣の連携強化（IEA Treasurer、IEA Western Pacific Regional Councilor）
4. 国際疫学会 WCE2024 運営への協力（2024年9月 於：南アフリカ、プログラム委員）
5. トラベルグラントおよびトラベルアワードの実施

若手の国際化を促進することを目的として、旅費や参加費の支援を行なっている。

- 海外会員の日本疫学会学術総会参加者への助成金：2023年（3名）、2024年（7名）
- JEA の若手会員の国際疫学会（WCE2024）への参加のための助成金：2024年（7名）

c.活動からもたらされる社会的な意義

- 疫学研究者の質を向上させるとともに、関連領域研究者や実務家の研究への理解を促すことで、人を対象とした疫学研究が適切に実施され、その成果が世界の健康水準を高めることに寄与する。
- 一般向けの疫学用語の解説等を通じて、人々の疫学研究への理解、健康に関する研究結果の解釈への理解が深まることで、健康リテラシーの向上、ひいては国民の健康的な生活の保持増進に寄与する。

d.学会運営上留意している点

1. 多様性の尊重

学会員は医学だけではなく、様々な分野（社会疫学、栄養学、母子保健学、理論・統計学など）からの参入を促している。また、学術総会時には託児所を設け、子育て中であっても参加しやすい環境を整備している。さらに、国際的な情報交換を促進するため、英語のホームページを充実させたり、学術総会時には英語セッションを設置し、さらに海外からの参加者向けにトラベルグラント（海外からの参加者への助成金）を実施している。

2. 将来を見据えた学会運営

これまでは、2018年5月に発出された「日本疫学会 将来構想委員会 報告書」に基づき、学会の将来像を見据えた学会運営を行なってきた。しかし、コロナ禍を経て、社会的状況や人々の生活の様相が変化する中で、それに対応した学会運営が求められるため、更なる将来構想を検討中である。

II.日本医学会分科会にふさわしいと考えられる貴学会と他の分科会との連携による活動を記載して下さい。

- 日本人類遺伝学会 GMRC 制度に連携し、認定試験、更新制度を利用している。
- 社会医学系専門医協会と連携し、専門医・指導医の講習会の開催、試験実施に関する委員の派遣等を行なっている。
- 日本高血圧学会、日本循環器病学会、日本産業衛生学会、日本動脈硬化学会、日本糖尿病学会等と連携し、AMED 事業や TEAM 事業等を行なっている。
- 日本公衆衛生学会、日本栄養改善学会、日本病態栄養学会、日本体力医学会との連携企画、共催シンポジウム、教育講演等を開催している。